

平成 19 年新潟県中越沖地震を例とした 地域別対処

平成 19 年 7 月

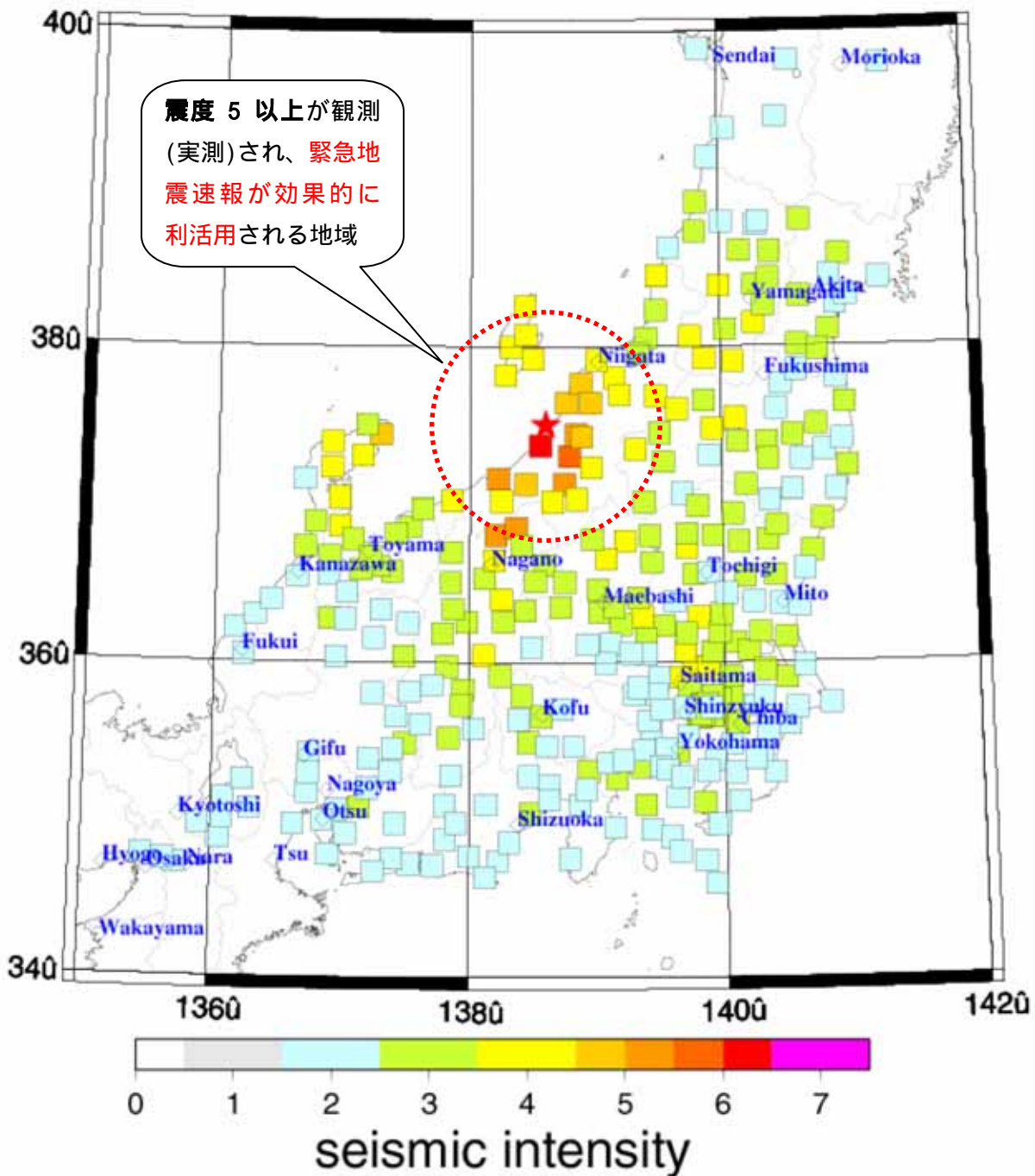
NPO 法人リアルタイム地震情報利用協議会



1. 地震計により実測された震度分布

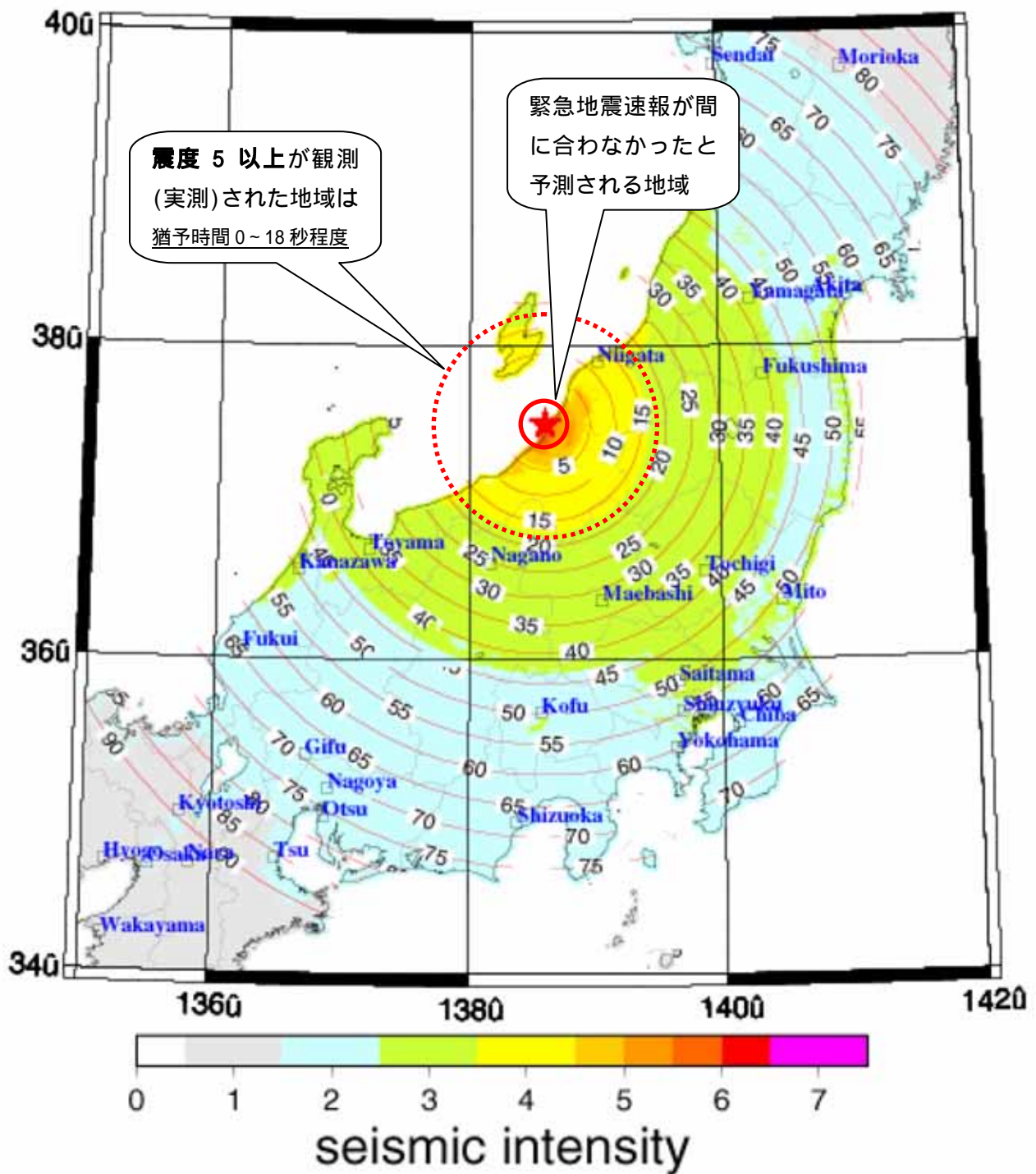
実測値

地震発生日時 : 7月16日10時13分
震央地名 : 新潟県上中越沖
北緯 : 37° 33.4′
東経 : 138° 36.5′
深さ : 約17km
マグニチュード : 6.8



(防災科学技術研究所 K-net 観測データ使用 ; <http://www.k-net.bosai.go.jp/k-net/>)

図1 震度分布図



* 数値は主要動到達余裕時間を示す。

図2 緊急地震速報 第1報を用いた予測計算結果

- ・ 震源に近い地域（中心赤色）は緊急地震速報が間に合わない範囲。
- ・ 震度5以上が観測された地域（赤色破線内）では、強い揺れが到達する0～18秒前に緊急地震速報が発報されている。

3. 予測震源位置のふらつきと速報が間に合わない地域

及び、現地地震計観測結果

震源に近い地域

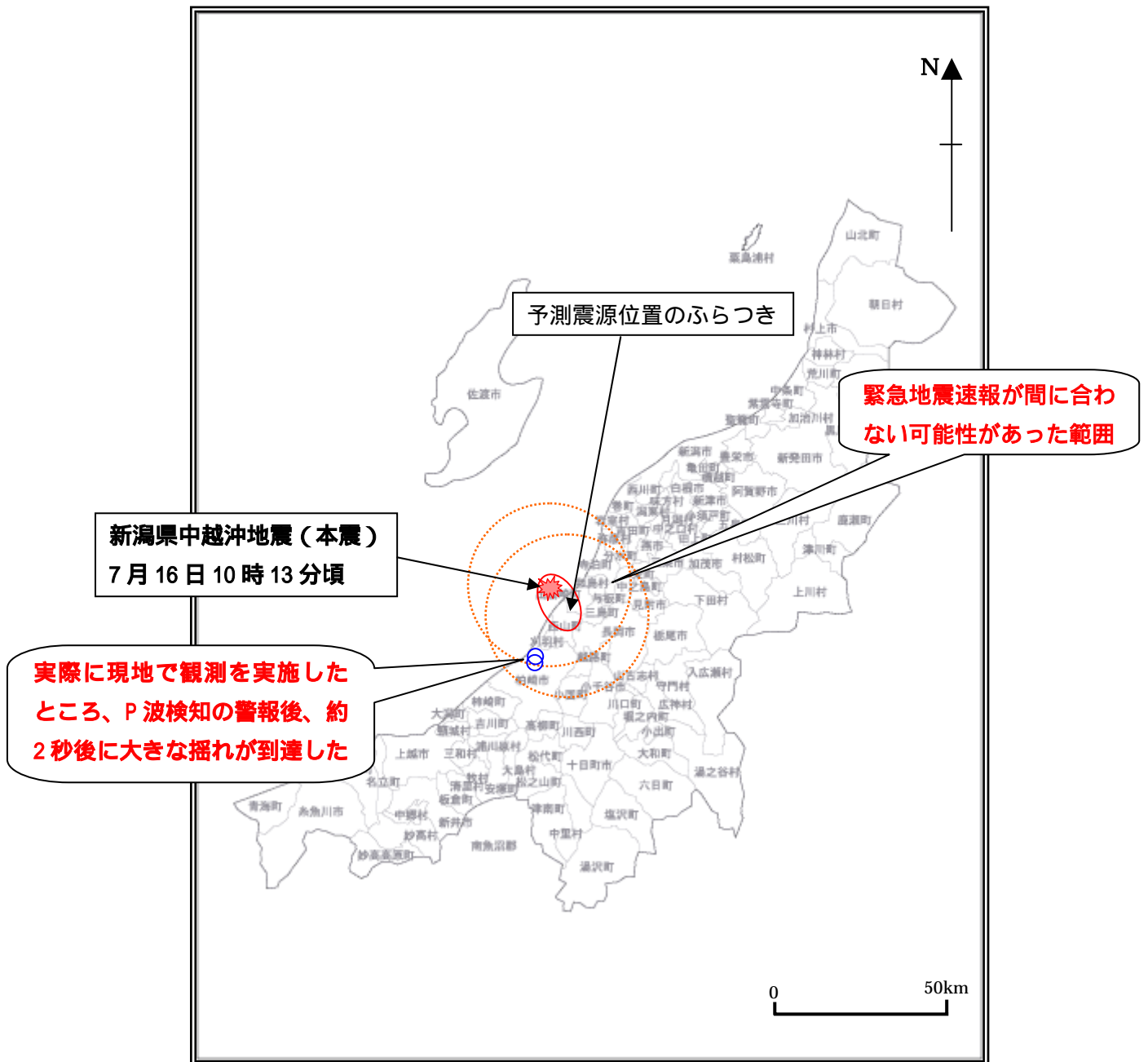


図3 余震観測地点位置図

青色丸印は本震の後1週間内に現地観測を実施した地点

柏崎市松波地区（現地地震計システム）

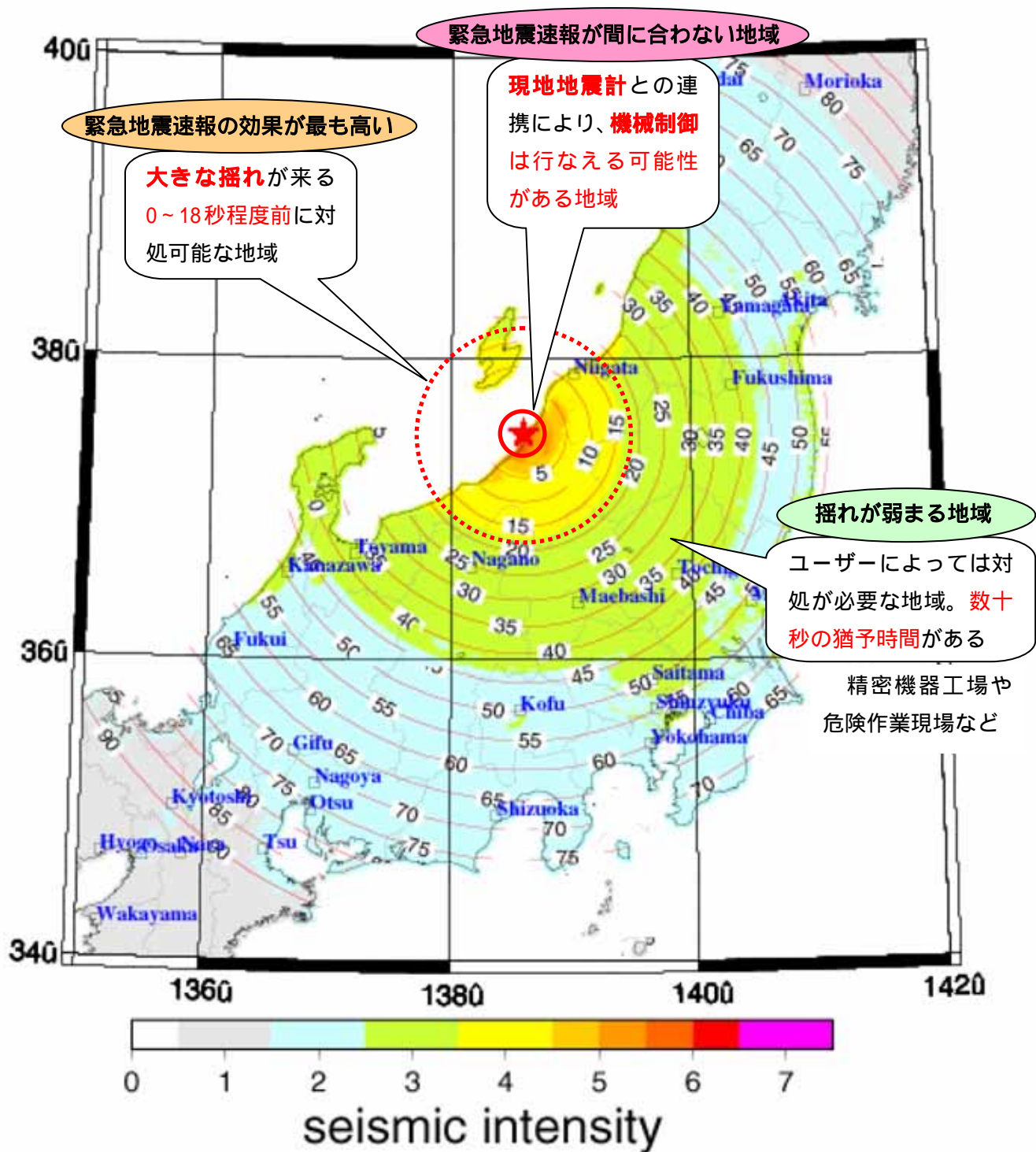
柏崎市市街地内（現地地震計システム）

緊急地震速報が間に合わない範囲内にて

大きな揺れの約2秒前に警報を発令できることを確認し

震源に近い場所でも現地地震計を連動させれば、機械制御は間に合う可能性が高い

4. 緊急地震速報利活用時の地域別対処



*数値は主要動到達余裕時間を示す。

図4 緊急地震速報 第1報を用いた予測計算結果

上記の各条件で何ができるかを
事前に検討しておく必要がある